

「川・水辺」に人が集うまち。

# 水辺には“キレイ”がいっぱい! ～カメラ女子と古利根川を歩く～

春日部市では、“カメラ女子”に大人気の写真家・山本まりこ氏を講師に迎え、女性限定の「春日部満喫撮影ツアー」を定期的に開催している。ツアー参加者の島田優希さんと春の古利根川を歩きながら、「川・水辺」の魅力聞いた。



カメラ歴3年  
しまだ ゆうき  
島田 優希さん

神奈川県川崎市生まれ。7歳から春日部に居住。日常の何気ない風景をふんわり優しく表現する山本まりこさんの「エアリーフォト」に出会い、写真に熱中。春日部の風景を撮り続けている。

## 足元に咲く小さな花が印象的な被写体に

「幼い頃は、父の転勤が多かったので、“ふるさと”と呼べる場所が欲しいなああって、ずっと思っていたんです。春日部に住むようになったのは小学1年生のときですが、とりわけ結婚して子どもができてからは、“ここが私のふるさと”という思いは、いっそう強くなりました」  
そう語るのは、0歳児と2歳児の母親でもある島田優希さん。彼女は平成28年3月に市が開催した「春の予感 きらめく大落古利根川 春日部満喫撮影ツアー」の参加者のひとりだ。このツアーは、カメラ女子を中

心に人気の写真家・山本まりこさんが講師として同行する女性限定の撮影ツアー。参加者たちは、「川・水辺」をテーマとした春日部市の魅力を体感しながら、撮影技術を学んだ。

「上の子が生まれた頃から、育児の合間のリフレッシュを兼ねて写真を撮り始めたんです。最初は漫然と撮っているだけだったのですが、何か物足りなさを感じていました。そんなある日、SNSで山本まりこさんの作品を見て、ひと目でファンになりました。何げない風景を印象的に切り取った、ふんわり、やさしい雰囲気……これこそ、私が撮りたかった写真だと感じました。だから、春日部でまりこ先生を講師として撮影ツアーを開催すると知って、子どもを預けて参加したんです(笑)」

露がビーズみたいにキラキラ輝いてとてもきれいなんです。風がおだやかな日は、水面に映る風景を狙うこともあります。陽が高い時間帯よりは、朝や夕方の光で撮影したほうが、印象的な写真が撮れるんですよ」  
島田さんは立ち上がると、さらに川下に向かって歩を進めていく。

## 「思いがけない出会い」も「カメラ散歩」の魅力

次に彼女が足を止めたのは、「ゆりのき橋」のたもとにある、小さな花壇。市民団体のみなさんが、花の手入れを行っているところだった。「こんにちは。写真を撮らせていただいてもいいですか?」と声をかけると、「いいよ! きれいに撮って

今回の取材の際に島田さんが撮影した写真の数々。そこには、水辺でゆったりとした時間を過ごす人々の姿があった。



撮影時の小道具として使っている「羽根つき」の羽。レンズの前に好みの色を写し込むことで、幻想的な仕上がりになる。

快晴の春の一日、古利根公園橋を起点に、島田さんと大落古利根川を歩く。この日は桜が満開。カメラを手にした彼女は、さっそく被写体を探して川辺の風景を見わたしている。最初にレンズを向けたのは、桜ではなく足元に咲く小さな花だった。  
「ふだん川辺で写真を撮るときも、足元の草花に心惹かれますね。朝早く訪れると、朝



# 「古利根川」 撮影ノート

四季折々の表情を見せてくれる古利根川。  
取材に協力していただいた島田さんの作品を紹介します。  
とっておきのビューポイントを教えてくださいました。



▲エンゼル・ドーム周辺で撮影。夕日が沈みだしたマジックアワーと言われる時間帯がとてもオススメです。魔法のように美しく撮影できて、川面に映る空や建物が幻想的な雰囲気を演出します。



▲川辺の緑のじゅうたんもすてきな撮影スポット。足元には季節によって、ツクシやオオイヌフグリなどかわいい被写体が。太陽が低い時間帯には、川面がキラキラ光るのでキレイな風景が撮れます。



▲川の駅ふじつか公園付近にタンポポの綿毛を発見。ふわふわを表現したくてボケ感を強めに撮りました。川の駅には花壇やあずまやがあり、川辺をゆっくり堪能しながら撮影できるスポットです。



▲ゆりのき橋の近くにあるお花畑も四季を感じられる場所。背の低い花は真上から撮るとオシャレな感じに。花とハチや蝶々などの生き物を一緒に撮ると動きを感じる写真になります。



▲春の川辺は菜の花がたくさん咲きます。春風に揺れる菜の花ってかわいいですね。菜の花と電車、菜の花と夕日など、ほかの要素とのコラボレーションも楽しいので、ぜひ春にトライしてみてください。



島田さんは、軽くてコンパクトなミラーレス一眼がお気に入り。レンズは旧ソ連製のオールドレンズを使用している。「独特のボケ感が魅力なんです」



足元の草花を撮影する島田さん。「姿勢を低くして、花に視線を合わせて観察するところから撮影が始まります。季節や時間帯によって思わぬ発見があるんですよ」

ね」と返事が返ってきた。こんな何気ないやりとりも、「カメラ散歩」の魅力だと島田さんは語る。「子どもたちを連れて写真を撮っていると、歩いている人が気さくに声をかけてくれるんです。私や子どもたちのことを知ってくれている人が増えるのは、とてもうれしいことです。ひよっとすると、自分が幼い頃にできなかった「ぶるさどづくり」を、いま一生懸命にやっているのかもしれない。そして子どもたちにも、春日部の風景が移り変わって

## 「心のバリア」を解いて 人と人がふれあえる場所

く姿を心に焼きつけてほしい……。将来、子どもたちと一緒に思い出を語り合うときのために、いっぱい写真を残しておいてあげたいんです」島田さんの写真には、こんな特別な思いがこもっていた。

ゆりのき橋を渡って、今度は川上に向かって歩く。やがて東武アーバンパークラインの鉄橋が見えるあたりまで来ると、満開の桜並木の下で、たくさんの人たちが思い思いに過ごしている。幼い子の手を引いて散歩するおばあちゃん、枝にとまっていた小鳥を指さして何か話している熟年夫婦。ふと、島田さんは構えていたカメラを下ろして、「なんだか、みんなニコニコしてますね」と、つぶやいた。

「子どもと一緒に川辺に来ると、『お子さん、いくつ?』とか『何を撮ってるの?』とか、中には『お子さんと一緒に写真、撮ってあげようか?』なんて言ってくれる人もいます。最近はメールやSNSでのコミュニケーションが中心で、体温を感じられるような人間関係が希薄になっているような気がします。でも、ここへ来ると、みんなが『心のバリア』を解いて、ゆったりとした関係



を楽しんでいるような気がするんです。『ああ、春日部っていいなあ』と感じる瞬間ですね」この日、島田さんが最後にレンズを向けたのは、「人々が思い思いに時を過ごす水辺の風景」だった。そして彼女は、こう語ってくれた。「水辺には、いつも新たな発見や人との出会いが待っています。この魅力を、ぜひ、多くの市民の方に知っていただきたいですね」

「かすかべ+1サポーター」として、ツイッターやブログで春日部の魅力を発信している島田さん。「“よしてい”という名前、好きな風景や、おいしい食べ物、子育て情報などについて、写真や文章で紹介しています」